



～介護の学びはとても新鮮です～



私が介護福祉士をめざした理由は、祖母が十数年前に亡くなり、祖父が一人暮らしをはじめたことがきっかけです。祖父に介護が必要になった時、私が面倒をみたいと思っています。私の通っていた高校には福祉コースがありましたが、私は進学の文系を選択し、介護については全く知識がなかったため、短大で教えてもらうことはとても新鮮に感じます。入学してから、授業や演習、ボランティアや試験などいろいろ大変ですが、友人もたくさんできて毎日がとても楽しいです。多くのことを学び今後に生かせるように日々精進しています。

短大入学後、初めての夏休みは、施設での傾聴ボランティアに参加するため、7月に開催された公開講座「ピアサポート研修」を受講しました。一般参加の方々と一緒にコミュニケーションについての理解を深め、「相槌」や「オウム返し」などの技法を学びました。植草学園の公開講座は、本学学生が無料で受講できるので、これからも積極的に参加してみたいと思います。

短大 福祉学科 地域介護福祉専攻 1年 大木 舞華
千葉県立松尾高等学校出身



～卒業生からのメッセージ～

発達教育学部 卒業生より



私は、千葉県内の特別支援学校で講師として勤務して3年目となります。先輩先生方の姿を見て、子どもたちへの支援、指導方法を学んでいます。以前は、子どもたちに対して、先回りをしてやってしまっている部分がありましたが、ある先輩先生と1年間仕事をするなかで、自分自身の教育に対する思いが変わりました。その先生は、常に子どもの将来のことを考えていました。そして、子どもたちと一緒に泣いたり笑ったり、毎日の活動のなかで共に学び成長することができた、笑いの絶えない学級でした。

子どもたちは、教師の工夫次第でできるようになります。先回りをしない、見守る、子どもたちからの発信を待つ、どうすればその子が将来困らないか、どうすればできるようになるのかを先生方と日々話し合い、子どもたちと楽しく過ごしています。

私は、短大の児童障害福祉専攻を卒業して、大学の発達教育学部に3年次編入をしました。短大時代の東日本大震災被災地ボランティアがきっかけで、おつきあいをはじめた同級生と昨年10月に結婚しました。彼は保育士で、職種が違うので、お互いに職種の特徴や意見を聞き現場に生かせるよう、協力し合っています。

大学 発達教育学部 発達支援教育学科 3期生 臼井 真奈巳
(旧姓：佐藤)
福島県私立学校法人石川高等学校出身



～小倉台納涼祭に参加して～



小倉台納涼祭準備の様子

緑栄祭（大学祭）実行委員会のメンバーと有志で、小倉台納涼祭に参加させていただきました。小倉台商店会とは、昨年の緑栄祭で花火の打ち上げにご協力いただき、また、先輩方がゼミ活動で、商店街の街づくりに参画するなどの連携をしています。

実際に、祭りの準備・運営を体験するなかで、小倉台商店会のみなさんが、年に一度の納涼祭を必ず成功させよう、多くの人に楽しんでもらおうという意気込みを強く感じました。今年度の緑栄祭のテーマは「祭」です。今回の経験は、緑栄祭において「祭」の雰囲気作りに役立つ有意義な機会となりました。緑栄祭当日、みなさんに楽しく参加してもらえるように頑張ります。

私は、小学校教諭をめざしています。今回の経験は、教員になった時に、学校行事の運営などに生かせると思います。成功するためには、どのような準備が必要か、どのような注意点があるのかを考え、子どもたちが楽しめる工夫をして行きたいです。



大学 発達教育学部 発達支援教育学科 2年 栗澤 陽太
千葉県立柏井高等学校出身

児童障害福祉専攻 卒業生より



私は、障害について深く学べるという特色に魅力を感じて、植草学園短期大学に進学しました。特別支援学校や施設で実習をしていくなかで、障害のある方に関わる仕事がしたいと強く思いました。

現在、知的障害者の通所施設に勤務し4ヶ月が経ちました。施設利用者の方にも毎日違う表情が見られ、個々の感性に私が学ぶ場面も多くありますが、信頼関係が築きはじめられたようにも思っています。初めて私に対して笑顔を見せてくれたこと、初めて名前でも呼んでくれたこと、そのような些細なことが私にとって大きな喜びであり、頑張りへ繋がっていきます。

社会福祉法人父の樹会 知的障害者施設 父の樹園 勤務
短大 福祉学科 児童障害福祉専攻 16期生 塚本 琴子
千葉県立佐倉西高等学校出身

